

口之島（トカラ列島）に自生する野生ブドウ・リュウキュウガネブの分布について

°望岡亮介¹・塩崎修志²・山下裕之³(¹香川大農学部, ²大阪府大院生命環境科学研究科, ³山梨大生命環境学部)Distribution of *Vitis ficifolia* var. *ganebu*, wild grape native to Japan, in Kuchinoshima island (Tokara Islands)

°Mochioka, R., S. Shiozaki and H. Yamashita

[目的] リュウキュウガネブ (*Vitis ficifolia* var. *ganebu*) は奄美群島以南で自生が確認されているが (中川ら, 1991), 千葉大学大学院薬学研究院の腊葉標本中に種子島で採集されたリュウキュウガネブとされるものがある (<http://mitizane.ll.chiba-u.jp/meta-bin/mt-pdetail.cgi?cd=00077055>)。しかし、発表者の望岡が現地調査したところ、種子島の野生ブドウは形態的にエビヅル (*V. ficifolia* var. *lobata*) に近く、リュウキュウガネブとは断定できなかった。そこで、リュウキュウガネブの北限はさらに南に位置するものと考え、トカラ列島の最北端である口之島の現地調査を行った。

[材料および方法] 調査は2015年9月22日から23日に行い、以下の項目について調査した：1. 分布調査：口之島内を目視により調査した。調査場所は山間部、集落周辺（畑も含む）とした。2. 葉形の調査：十分展開している成葉を、各樹12枚採取し、Galet (1979) の方法に従って葉の各部位を測定し、コード化した。さらに、主脈長と葉身長の比、葉柄長と主脈長の比についても調べた。

[結果および考察] 1. 分布調査：自動車で移動できる範囲内では、比較的島の東側に分布していたが、山岳地域では確認できず、集落近くの畑、生垣など人間の生活圏で個体数が多く、南部の山間部でも個体数が少なかった。山間部でリュウキュウガネブを探していると、山の中でなく集落の中を探すよう、出会った島民から指摘された。聞き取り調査によると、島民は本野生種を「ヤマブドウ」、「ガライビ」と呼んでおり、おやつ代わりに食べているようである。このことから考えて、人間の生活圏で個体数が多いのは、もともとは山採りしたリュウキュウガネブ果実を集落に持ち帰り、食べた後の種子を集落周辺に捨てたものが生育したのではないかと考えられた。なお、九州の方言でブドウを「ガネブ」、「ガネビ」、「ガラメ」などと呼ぶことから、「ガライビ」はこれらから派生した言葉であると推測できる。また、これらの方言の大本になったのは、ブドウの古語の「エビ」ではないかと思われる。2. 葉形の調査：自生地の中で、12枚以上の葉を持たない個体は調査からはずし、十分展葉している個体が認められた8か所から採取した葉の測定結果は第1表に示した。各地点の個体のA, B, C, rのコード番号は近い値を示したが、S₁, S₂では⑤ヘリポート・南、⑥健康広場近く、⑧フェリー待合所前のコード番号が大きな値となり、葉が開帳していることが明らかとなった。また、L₁/Lは値が小さいほど葉柄裂刻が深いことを表すので、S₁, S₂のコード番号の大きいこれら3地点で小さい値となった。葉柄長については、⑦戸尻・北のものが最も長かった。いずれの地点の葉も3裂片であった。

以上の結果、口之島ではリュウキュウガネブが食用となることを認識しており、集落近くに多く自生し、さらに葉の多様性が認められた。果実については今回成熟前であったため評価はできなかった。

第1表 口之島に自生するリュウキュウガネブの葉形^z

採取場所	ABC-r-S ₁ S ₂	L ₁ /L	P/L ₁
①集落内1	146-4-23	0.83±0.01 ^y	0.49±0.05
②集落内2	246-4-23	0.89±0.01	0.35±0.02
③ヘリポート・北1	146-5-22	0.84±0.01	0.49±0.03
④ヘリポート・北2	256-5-23	0.84±0.01	0.51±0.04
⑤ヘリポート・南	246-5-45	0.82±0.01	0.45±0.03
⑥健康広場近く	246-5-45	0.80±0.01	0.38±0.01
⑦戸尻・北	146-4-23	0.88±0.01	0.65±0.04
⑧フェリー待合所前	146-5-45	0.77±0.01	0.37±0.01
口之島全体平均	156-4-23	0.78±0.00	0.43±0.01

^z: A: L₂/L₁, B: L₃/L₁, C: L₄/L₁, L: 葉身長, L₁: 主脈長, L₂: 第1側脈長, L₃: 第2側脈長, L₄: 第2側脈の第1支脈長, r: 葉身長/葉身幅, P: 葉柄長, S₁: 主脈と第2側脈間角度, S₂: 主脈と第2側脈の第1支脈間角度。

^y: 平均値±標準誤差

Galet, P. 1979. A practical ampelography: Grapevine identification. Cornell University Press. NY.

中川昌一ら. 1991. 園学雑. 60 : 31-39.